

# 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては令和3年の新春を厳かの中静かに迎えることと拝察いたします。

昨年は1月末の新型コロナウイルス感染症発生から、日本をはじめ世界中で猛威を振るい2020東京オリンピックをはじめあらゆる行事等が中止又は延期を余儀なくされ、経済的・精神的に大きな痛手を受けた一年でありました。山都町でも11月に7名、本年1月に1名の感染者が確認されました。町民の皆様におかれましては、まずは自身や家族の方々が感染しないように、ワクチン・治療薬の開発・投与が出来るまで、新しい生活様式の中で三密を避け、手指の消毒・うがい等を徹底していただきたいと思っております。

昨年を振り返りますと、4月に通潤橋の地震・水害からの復旧工事を終え、7月から放水を再開し、多くの観光客に訪れていたが、「通潤橋」の山都町における観光資源としての魅力の大きさを痛感しました。

九州中央自動車道については、「矢部・蘇陽」間の計画段階評価が実施されており、早期事業化に向けて事業を推進するとともに「山都中島西・矢部」間の1日も早い供用開始を期待しております。ま

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様には、日ごろから温かいご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の話題として新型コロナウイルスの猛威を取り上げずにはいられません。静かに忍び寄っているかと思われたこの感染症は、今やいつ誰が感染してもおかしくない状況です。町民の方には身体的にも精神的にも落ち着かない一年だったのではと推察します。特に小中学生等にとっては、卒業間際に臨時休校を余儀なくされ、思い描いていた学生生活や友人との交流が叶わず、残念な思いをされた方も多かったことでしょう。

高校野球も春の選抜高校野球、夏の甲子園大会と相次いで中止となりましたが、そのような中であって目覚ましい活躍の高校がありました。長崎県立「大崎高校」です。人口5千人の離島にある高校で、一時は部員が足りず他校との合同チームで試合に出場していたといえます。しかし、11月の九州大会では強豪、古豪を次々と破り、見事初優勝。球児たちの活躍に久しぶりに心が踊りましたが、

た、「蘇陽・五ヶ瀬東」間においては12月に中心杭打ち式が開催され、本格的に測量・設計・ルートの確定・用地買収と進んで参ります。早期の工事着手を実現するため地元関係者の方々の御協力をお願いいたします。

矢部ICの開通を見据えた大きなプロジェクトの進み具合ですが、「道の駅」建設につきましても、周辺の方々やコンサルタント会社等との協議を進めています。総合体育館建設につきましても、用地造成を早期に終了すると共に、今進めている基本設計を終了し、グラウンドゴルフ等が楽しめる芝生広場を含めた中央グラウンド周辺整備と共に、早期の建設に着手するよう進めて参ります。通潤橋周辺整備については、プール等の解体工事を終えておりますが、現体育館の解体後、城山周辺を含めた一帯の整備を進めて参ります。

要望を多くいただいております。若者向け住宅につきましても、分譲地「やまとテラス」10区画全てに子育て世帯が住宅を建てられ生活を始めていただいております。子ども達の声が聞こえる賑やかな住宅地になりました。町としても空き家対策を含めた住環境整備を進めており、災害復興住宅を活用した町営住宅の更新や、下市地区への若者向け町営住宅の建設等を

窮地にあっても諦めることなく努力や工夫で道を開くことが出来る、そのことは町づくりにおいても同じことが言えるのではないかと感じました。

行政では、コロナ禍の中で町民の命と生活を守るため、町独自の政策も数多く提案されております。議会としましては、その一つに議論を尽くし、適切な事業の速やかな実施に努めてまいります。一日も早く以前のよう暮らし、また新しい生活上の充足感を生み出すべく、今後も最善を尽くして参る所存です。山都町民として、今こそ互いを思いやる気持ちを持ち、共にこの局面を乗り切りましょう。

また、2025、2040年問題という言葉聞いたことがあるかと思えます。団塊の世代が後期高齢者となり、限られた若い世代が多くの高齢世代を支えなければなりません。より効果的な介護予防、そして山都町で安心して暮らし続けるための高齢者福祉の充実について、さらにアクセルを踏み続け、皆様の実感につなげるための議論を行っていききたいと思っております。

昨年は、熊本地震以降中止と

進めて参ります。

昨年4月末に「そよ風パーク」を運営するそよ風遊学協会が事業停止を決定し、町民の皆様、従業員の皆様や関係者の方々に多大な御心配と御迷惑をおかけし大変申し訳なく思っております。町議会9月定例会で新しい運営会社を決定いただき10月末にそよ風物産館の営業を再開し、レストラン・ホテルにつきましても早期の営業に向けて準備いただいております。

1月4日、山都町成人式が蘇陽営農センター大ホールで開催されました。コロナ禍の中で開催を心配する声もありましたが、実行委員会・教育委員会の感染症対策を踏まえた取組みにより素晴らしい式典となりましたことに心より感謝申し上げます。代表者による「誓いの言葉」、交通安全宣言、出席された87名の新成人一人一人から育てていただいた方々への感謝の気持ちが強くなり感動いたしました。それぞれが町内外で頑張っておられるとお聞きしておりますが、近い将来、山都町で魅力あふれる町づくりと一緒に取り組んでいただきたいと強く願っております。

本年もコロナ禍の中の年となりますが行政の停滞は許されません。先に述べました道の駅建設・総合体育館を含む中央グラウンド周辺整備、有機農業を核とした農林業

なっていた通潤橋の放水も再開することができました。さらさら舞い上がる水しぶきは、未来に向けて手を取り合う山都町を激励してくれているようにも思えました。

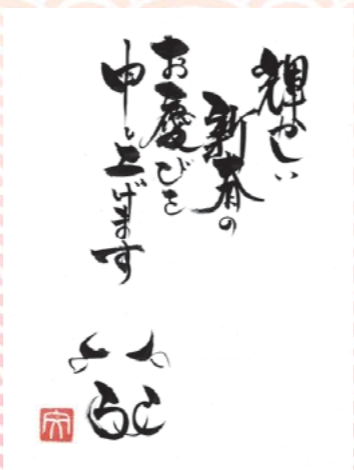
さらに、九州中央自動車道の計画が着々と進行していることもうれい話題です。先日は「蘇陽五ヶ瀬道路（蘇陽区間）」の中心杭打ち式が無事行われました。山都町が阿蘇、宮崎、大分への玄関口となる、まさに山都町の未来を切り開く希望の道です。清和地区へのインター設置を含め、早期の事業着手を今後も強く政治的に要望してまいります。

本年は「丑年」ですが、千十二支で言えば「辛丑（かのと、うし）」にあたります。辛丑は、耐えることもあるけれど、その分だけ大きく発展するといった意味があるようです。今しばらくは行動の制限など厳しい時期が続くかと思われませんが、必ず、その先に新しい希望が大きく芽吹きます。深くヒザを曲げてこそ、高くジャンプできるものです。本年が町民の皆様にとりまして、一層実り多き年となりますことを心よりご祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。



山都町長 梅田 穰

の振興、矢部高校応援プロジェクト、子ども達の学びの環境整備等を通じ、若者も高齢者も共に明るく暮らせる町づくりを目指し、今取り組んでいる多くの事業を着実に前に進め、大きく飛躍する年にしたいと思っております。最後に参りますが、本年は厳しい年となることを覚悟しつつ、町民の皆様にとりまして素晴らしい年になることをご祈念申し上げます。年頭の御挨拶いたします。



山都町議会議長 藤 文 範

